



ハノイメトロ3号線が商業運行開始

8月8日、着工から約14年の歳月を経てハノイメトロ3号線（ヴァンミェウ線）が一部区間で運行を開始した。3号線はハノイ市西部のニョン駅からハノイ駅までの12駅を結ぶ、全長12.5kmの路線。2021年に開業した2A号線（カトリン線）に続き、2路線目の開通となった。今回運行開始したのはニョン駅からカウザイ駅までの8.5kmの地上区間のみとなっており、残る4kmの地下部分は現在建設中である。

8日から15日間は無料で開放され、週末には多くの市民が待ち望んだ電車を利用した。筆者もその一人である。運営会社であるハノイメトロによると、8日～11日までの4日間で25万人超の乗客数を記録。最初の日曜日であった11日の利用者数は10万人を超え、2A号線における1日の利用者数記録の5.8万人と比べると3号線の今後の成長期待がうかがえる。



ハノイメトロ3号線の車両（Alstom社）
中央にはハノイメトロのシンボルが描かれている
※JSI撮影



ニョン駅周辺。建物は少なく今後の開発が期待される。
※JSI撮影

度重なる延期の末の完成

ハノイにおける都市鉄道開発が初めて言及されたのは1998年発表の“2020年マスタープラン”でのことであり、2004年から調査が開始した。2010年には、ハノイ市の3.07億ドル相当の予算に加え、フランス政府、仏開発機構、アジア開発銀行、欧州投資銀行といった4つの組織から計8.09億ドルの出資を受けて3号線の建設を開始。当初は2018年に商業利用開始の予定であった。建設は仏交通コンサルSYSTRA Group、Alstomの2社が中心となり進行したが、2018年時点の進捗率が43%にとどまるなど、完成までに計13回の延期が行われた。

現在建設中のカウザイ駅からハノイ駅までの地下区間は先月30日より線路用の地下トンネルの掘削作業が開始した。工事は2027年に完了する見通しで、その後に商業化される予定。

ハノイ市は2045年までに15路線（延べ約600km）の建設を計画しており、その総額予算額は554.42億ドルにのぼると試算している。この資金調達においては国家予算とともに各国からのODA支援が重要視されており、現在開発中の1号線においては日本からのODAによる援助に加え、日本企業とのコンサルタント契約を締結している。

今後は鉄道開業に伴って周辺地域の開発が進むことが予想される。また、公共交通機関の普及は経済の流動性を高めるほか、バイクの代替手段として環境保護の観点でも期待されるため、引き続き動向を注視したい。（執筆者：Japan Securities Co., Ltd. 高井）

免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。